

## 8. 宮城蔵王における地域の中の国有林

白石営林署

農林水産事務官 館 泰紀

### 1. はじめに

当署は青森営林局の最も南に位置し、管内北西部には宮城県のシンボルである蔵王連峰が連なり、最近自然と親しむ人たちが多く、雄大な蔵王の自然を楽しむ観光客も年々増えてきている

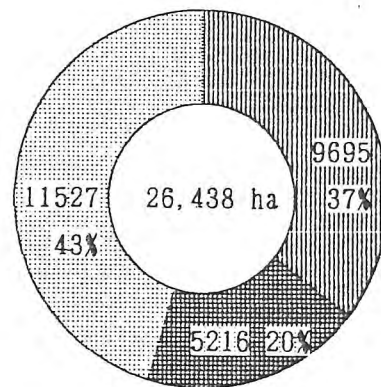
管内の国有林野面積26,438haの内、蔵王国定公園に指定されているのが約37%にあたる9,695ha、県立自然公園が約20%の5,216haでこれを併せると国有林野面積の約57%にあたる14,911haになる。(グラフ参照)

その中にレクリエーションの森が指定されており、スキー場・キャンプ場等のレクリエーション施設も多く、また温泉場としても有名で一年間に蔵王を訪れる観光客は、約200万人にも及びます。

このような環境の中で、当署では地元市町村と連携を取りながら、宮城蔵王の発展と国有林のPRのために観光客へのマナーアップの呼びかけや、地元で開催されるイベントへ参加している。

さらに冬期間は、えぼしスキー場・澄川スキー場・白石スキー場の3つのスキー場の受託業務により、地元への協力と併せて収入確保を図る取り組みをしているのでこれらのことについて発表する。

管内国有林面積内訳



|||| 国定公園    ■■■ その他  
 ■■■ 県立自然公園

### 2. 取り組みの内容

#### (1) 看板・標識の作製と設置

材料は、製品生産事業跡地の端尺材を利用し、柱についてはカラマツの保育間伐材を利用して職員がデザインを考え作製している。 表-1

設置の状況は、高山植物盗採防止の標識を登山道や遊歩道に16枚、スキー場関係の標識をスキー場のコース内やリフトの降り場に5枚、その他の標識を3枚国有林の入口に設置した。(表-1参照)

	盗採防止	スキー場関係	その他
設置枚数	16	5	3

#### (2) 各種イベントへの参加

白石市で毎年5月上旬に行われるこけしまつり(全日本こけしコンクール)の中で営林署のコーナーを設け、職員がデザインして作製したスギの端尺材を利用したベンチ・テーブル・椅子・つぼや、ケヤキの端尺材を利用した花台・表札等の木工品を展示即売した。

#### (3) 蔵王の清掃と高山植物盗採防止パトロール

毎年観光シーズン前の5月に職員が蔵王連峰(刈田岳~不忘山)の登山道のゴミ拾いや標識の整備を行っている。また、5月~10月のシーズン中は、総務課・担当区主任を中

心に全職員が協力して、蔵王エコラインや登山道等を高山植物盗採防止と山火事防止パトロールを実施している。特に、盗採の最も多い早朝や夜間の取締りに苦慮している。

#### (4) 森林教室（森と湖に親しむ少年の集い）

森と湖に親しむ旬間の中で小中学生とその家族を対象に蔵王少年自然の家で森林教室を実施し、木の名前や森林のはたらき、木材が何に使われているか等を話しながらオリエンテーリングを行っている。

#### (5) 受託業務

当署管内の国有林には、えぼしスキー場・澄川スキー場・白石スキー場・七ヶ宿スキー場の4つのスキー場がある。

これらのスキー場をシーズン中に訪れるスキー客は、最近のスキープームに乗って年々増えてきており、昨シーズンは約78万人と過去最高を記録した。そのため各スキー場の共通の問題点として冬期間の従業員不足がある。また当署では、事業箇所が奥地化してきたために冬期間は積雪のため造林事業が安全且つ効率的に実行することができない状況もあり、昭和61年度からスキー場管理業務の一部受託を実施している。

### 3. 取組の結果

#### (1) 看板・標識の作製

材料は製品生産事業跡地の端尺材及び保育間伐材を利用し、作製は署内職員が仕事の合間にあたることからコストは安く、またデザインも職員がすることにより設置箇所に合った看板・標識を作製することができた。設置後の地元関係者の評判も良く、8月には七ヶ宿町のイベント用看板を作製した。

今後も、より良い看板・標識を作製し、観光客のマナーアップと国有林のPRに努めていきたいと考える。

#### (2) 各種イベントへの参加

こけしまつり（全日本こけしコンクール）での展示即売は、大変好評で展示品はすぐに完売し、またその他のイベントからも出品要請があったが、業務上の都合もあり作製できずに残念ながら出品することができなかった。

来年度以降も、地元主催の各種イベントへできるだけ参加し、地域との交流・国有林のPRに努力していきたいと考える。

#### (3) 蔵王の清掃と高山植物盗採防止パトロール

蔵王の清掃を毎年行うことにより、登山道や遊歩道の環境も整備されゴミも年々少なくなってきており、観光客のマナーも向上してきているように思われる。

しかし、高山植物盗採は後を絶たずパトロールで注意を促すだけでは確実な効果はみられなかった。今後盗採を完全になくするためには、パトロールの回数を増やすことの他に蔵王山岳遭難救助対策協議会等へ盗採防止協力等を委嘱するなど、今後は巾広い高山植物盗採防止パトロールを展開する必要がある。

#### (4) 森林教室（森と湖に親しむ少年の集い）

森林教室で一緒に自然の中を歩くことにより、地元の小中学生やその家族の方たちとコミュニケーションを図ることができ、また、森林のはたらきや営林署の仕事についても理解してもらうことができた。

(5) 受託業務

受託業務の実績は、昭和61年度で10人、昭和62年度23人となり昭和63年度では22人で延人員で、えぼしスキー場524人、澄川スキー場が437人、白石スキー場が568人、合計で1,529人となっている。

昭和63年度 受託業務実績

表-2 単位 千円

金額では、えぼしスキー場2,933千円、澄川スキー場2,454千円、白石スキー場3,166千円、合計8,553千円である。(表-2参照)

	えぼし	澄川	白石	合計
延人員	524	437	568	1,529
金額	2,933	2,454	3,166	8,553

しかし、昨年まで青森営林局管内に例がなく、試行錯誤を繰り返しながら諸問題に対処してきた。今後も、今までの経験を生かしてスキー場ともよく話し合い、双方のメリットが大きくなるよう努力していきたいと考える。

4. 考察

蔵王連峰は宮城県のシンボルであり、県民の大事な財産である。その大部分は国有林であり、営林署としても蔵王の発展に寄与するとともに国有林をPRする絶好の場であると考えている。今後とも、今までの経験を生かして更に充実させるため職員一丸となって取り組んでいきたいと考える。